

プロジェクト

「にんにく」で儲かる産地づくり

目標

- ・国産シェア R4：66% → R10：66%
- ・単収（出荷量） H30～R4年産平均：693kg/10a → R5～R9年産平均：753kg/10a
- ・品質（A B品率） H30～R4年産平均：77% → R5～R9年産平均：85%

挑戦する内容

- ・労働力不足に対応した技術開発
- ・種苗増殖管理技術向上に向けた取組
- ・「青森福雪」の栽培技術の確立
- ・高温に応じた栽培技術の確立

関係者の声
＝対話

- ・栽培面積の拡大や収穫最盛期の人手不足を解消するため、収穫時期を分散する技術を研究してほしい（農業者）
- ・種苗増殖専用ほ場における、生産者の管理が不十分である（農協）
- ・春腐病発生要因を究明してから種苗供給してほしい（農協）
- ・近年の気候変動により、にんにくの生育が早まったり、肥料の溶出時期が変化しているのではないか（全農）

役割分担

- ・全農、農協：優良種苗増殖、研修会開催、実証ほ等設置運営、現地指導
- ・産技センター：優良種苗供給、新品種の栽培技術や気候変動に対応した技術の確立、労働力不足に対応した技術開発、イモグサレセンチュウ調査
- ・県：優良種苗供給体制整備、研修会・会議開催、現地指導、実証ほ設置等

変革後の姿

- ・県産にんにくのトップブランド地位を将来にわたって堅持
- ・省力化・品質の安定化による面積の維持
- ・優良種苗増殖技術の向上及び肥大に優れる「青森福雪」の導入によるA品率と単収の向上

令和7年度計画

挑戦する内容

- 1 労働力不足に対応した技術開発
 - ・大型ファンを活用した乾燥の活用事例調査（野菜研）
 - ・チェックリストの作成（野菜研）
- 2 種苗増殖管理技術向上に向けた取組
 - ・指導者及び生産者に対する種苗増殖専用ほ場管理技術の指導
 - ・アブラムシ類の忌避技術の実証（野菜研）
 - ・イモグサレセンチュウ被害軽減対策及び現地事例調査（野菜研）
- 3 「青森福雪」の栽培技術の確立
 - ・収穫適期把握試験の実施（野菜研）
 - ・春腐病多発要因の究明及び対策技術の確立試験の実施（野菜研）
 - ・品種特性に応じた栽培技術確立のための実証ほの設置（9か所）
 - ・品種特性確認のための現地試作ほの設置（最大12か所）
- 4 高温に応じた栽培技術の確立
 - ・「青森福雪」における植付時期、マルチの種類等を組み合わせた作期拡大効果の実証（野菜研）
 - ・高温による生育障害抑制技術試験の実施（野菜研）



優良種苗栽培技術研修会

優良種苗生産技術指導
プロジェクトチーム会議

対話

- ・部会を開催し、事業の進捗状況を把握するとともに、意見を参考に事業構築（7月、1月）
- ・生産者や生産者団体、市場等からの意見を聞き取り、取組内容に反映（9月）